

達セラル

々蒙作命甲第一三號ヲ以テ朱沼長麾下幹錫候ノ指揮スル約一萬ノ部隊ハ五原ヲ經テ黃河南岸地區ヲ前進攻撃ニ出ツル意圖アリ軍ノ之ニ對スル反擊命令ヲ下達セラル

前項命令ニ基キ蒙作命丙第一〇號ヲ以テ兵站部隊ヲ區處セラ
ル軍醫部關係事項左記ノ如シ

左記

(1) 軍補給諸廠長ハ一月十八日迄ニ軍需品ヲ集積スルト共ニ包頭出張所ヲ強化スヘシ尙下士官以下所要ノ人員ヲ厚和ニ派シ第二十六師團長ノ指揮ニ入ラシムヘシ

衛生材料集積計畫左ノ如シ

集積衛生材料數量

厚和兵站司令部 12師團分 一ヶ月分

包頭出張所 23師團分 一ヶ月分

(2) 大同、張家口陸軍病院長ハ各々左記人員ヲ厚和ニ派遣シ厚和

陸軍病院長ノ指揮下ニ入ラシムヘシ

左記

軍醫 二

衛生下士官 三

衛生兵 一〇

(9) 第二十六師團長ハ師團衛生隊約三分ノ一及野戰病院ノ一部ヲ

厚和ニ派シ余ノ直轄タラシムヘシ

5. 作戦ノ推移ニ鑑ミ十五日別紙第二ノ如ク衛生勤務指導計畫ヲ樹立スルト共ニ別紙第三ノ如ク出動部隊衛生機關ニ指示ヲ與ヘ衛生作戦遂行ニ遺憾ナカラシム

6. 本作戦間特ニ患者輸送班ノ必要ヲ認メ意見具申中二十日蒙作命丙第二一號ヲ以テ左記ノ如ク處置セララル

左記

(1) 別紙第一ニ據リ患者輸送班ヲ編成シ余ノ直轄タラシムヘシ
患者輸送班ハ一月二十六日迄ニ包頭ニ前進スヘシ

(2) 軍直轄タル第二十六師團衛生隊及同野戦病院ノ一部ハ薩拉齊ニ前進スヘシ

別紙第一

患者輸送班編成要領

考 備	區 分					摘 要
	自動貨車	患者自動車	衛 生 兵	衛 生 下 士 官	軍 醫	
一、「バス」ハ汽車公司ノモノヲ徵發スルモノトス 二、大同貨物支廠ニ於テ左ノ材料ヲ準備スルモノトス 強心劑、止血劑、藥物、繃帶材料若干、患者毛布二〇〇枚 患者保温材料		バス 二 三	八	一	一	大同陸軍病院
		バス 二 三	七	二	長少尉 一	張家口陸軍病院
			一			獨立混成第二旅團
	五					軍司令部
	五	バス 四 六	一 五	三	三	計
		入ラシムルモノトス	送シ班長ノ指揮下ニ	鐵道ニ依リ包頭ニ輸	成シ成ルヘク速カニ	各部隊ニ於テ先ツ編

7. 患者輸送班ハ二十七日全員包頭ニ到リ編成ヲ完結ス患者輸送班長ニ與ヘタル指示別紙第四ノ如シ

8. 本作戦間野戦衛生機關ノ増援方北支方面軍ニ意見具申中方軍作命丙第七四號ニヨリ左記部隊ヲ軍司令官ノ指揮ニ入ラシメラル

左記

衛生隊三分ノ一

野戦病院ノ一半部

9. 方面軍ヨリ前記衛生機關配屬ニ伴ヒ曩ニ第二十六師團ヨリ重ノ直轄タラシメタル衛生隊ノ三分ノ一野戦病院ノ一部ヲ原所屬ニ復歸セシメラレ新ニ配屬セラレタル衛生隊ノ三分ノ一ヲ

騎兵集團ニ配屬シ野戰病院ノ一半部ヲ軍直轄タラシメラル
軍直轄野戰病院長ニ與ヘタル指示別紙第五ノ如シ

10. 二十二日蒙作命甲第二三號ニ依リ戰鬪司令所ヲ厚和ニ開設セ
ラレ軍醫部長ヘ二十三日飛行機ニヨリ部員關野大尉及書記二
名ハ鐵道ニヨリ夫々厚和戰鬪司令所ニ前進ス

11. 作戦ノ推移ニ伴ヒ別紙第六ノ如ク第二期作戦衛生指導計畫ヲ
樹立シ又出動部隊竝ニ各衛生機關ニ對シ別紙第七ノ如ク細部
指示ヲ與ヘ衛生作戦ニ萬遺憾ナキヲ期セリ

12. 是ニ計畫中ナリシ本年度軍冬季試驗ハ作戦ノ爲實施困難ナリ
シモ本次作戦ニ於テ其ノ目的ヲ達成シ得ル點モ尠ナカラサル
ニ於テ豫メ作戦間終始研究ノ著意ヲ以テ實驗資料獲得方ニ關

シ作戰部隊ニ要求セラル

研究項目中衛生關係事項別紙第八ノ如シ

13. 軍ハ二十一日ヨリ二十四日迄包頭南方及西南方黃河南岸地區

ノ敵ヲ西南方ニ擊壞シタル後各部隊ヲ包頭附近ニ集結シ次期

作戰ヲ準備中ナリシカ二十八日後套地區ニ對スル攻撃命令下

達軍戰鬥司令所ハ厚和ヨリ包頭ニ推進スルコト、ナリ二十九

日部長以下包頭ニ前進ス

14. 二十八日蒙作命丙第三五號ニ依ル後套地區作戰ニ伴フ兵站關

係中衛生關係事項左記ノ如シ

左記

(1) 第二十六師團及騎兵集團ノ五原附近進出迄ノ補給點左ノ如

第二十六師團

安北

騎兵集團

包頭

（長牙店以西地區ニ進出セル後ハ成可ク安北トス）

(2) 軍補給諸廠長ハ一月三十日迄ニ安北ニ出張所ヲ開設スルト

共ニ在安北騎兵集團集積軍需品ヲ繼承スヘシ

(3) 第二十七師團野戰病院ハ一月三十日迄ニ安北ニ開設スヘシ

15. 本作戦ノ特性ニ鑑ミ凍傷發生ハ最モ憂慮セララルル所ナルヲ以

テ三十一日作戰部隊一般ニ對シ別紙第九ノ如ク指示ス

16. 騎兵集團配屬衛生隊ハ包頭ニ殘留シアリシモ本隊追及ノ必要

アリ地方在包頭醫官不在ノ殘留部隊患者診療ヲ統一實施スル

ノ要アルヲ以テ意見具申三十日蒙作命丙第四〇號ニ依リ夫々

左記ノ如ク處理セララル

左記

(1) 騎兵集團ノ殘置セル衛生隊（擔架中隊欠）ヲ臨時兵站輜重兵隊ヲシテ明三十一日出發騎兵集團ニ追及セシメラル

(2) 松原大隊附屬救護班ハ明三十一日以降當分ノ間臨時包頭兵站司令部内ニ於テ開設在包頭部隊ノ診療ニ任セシメラル

17. 騎兵第一旅團初年兵集合地身體檢査醫官ヲ命セラレ東京ニ出張中ノ關野大尉ハ二十一日歸還ス

18. 山之内藥劑部員ハ本次作戰ニ關スル衛生材料補給業務指導竝ニ連絡ノ爲十五日ヨリ二泊ヲ以テ大同貨物支廠ニ又三十日ヨリ四泊ノ豫定ヲ以テ大同、厚和、包頭ニ出張ス

19. 十三日軍醫部長ハ高級部員黒江少佐ヲ滯同シ蒙古聯合自治政
府管内地方病院長會議ニ列席訓示ス

20. 第一軍軍醫部長ヨリ第一軍管内寧武患者療養所收容患者中内
地還送見込患者竝ニ特殊治療ヲ要スヘキ患者ハ爾今大同陸軍
病院ニ後送セシメ度旨照會アリタルニ依リ承認方回答ス

21. 昭和十五年度初年次衛生兵教育擔任陸軍病院長ニ對シ別紙第
一〇ノ如ク指示ス

22. 方面軍ヨリA O接種豫定人員ノ調査方通牒アリタルヲ以テ左
記ノ通報告ス

左記

(1) 下士官候補者全員

四〇〇人分

(2) 初年兵全員

九〇〇〇人分

(3) 二年兵以上體質虚弱者

三六〇〇人分

計

一三〇〇〇人分

2.3. 各地ニ於ケル痘瘡流行ノ現況ニ鑑ミ該地方旅行者其他ニ必要

ナル地方民實施用トシテ左記ノ通り方面軍ニ痘苗交付方申請

セリ

左記

痘苗 一三〇〇〇人分

一、患者ニ關スル事項

1. 月間ニ於ケル新患總數一七三九名（部隊新患）

入院新患總數 七四三名ニシテ入院新患中主要傷病左ノ如シ

2. 月末現在ニ於ケル各衛生機關患者ノ狀況附表第一ノ如シ

3. 「巴」號作戰（本次包頭方面作戰）ニ於ケル月間戦死傷ノ狀況

戦傷	赤痢	腸チフス	パラチフス	結核	脚氣	胸膜炎	花柳病	凍傷
九一	四	一二	六	二七	三	一三	三二	一

左記ノ如シ

左記

戦死 二一

戦傷 七三

三、患者輸送ニ關スル事項

一、特設病院へノ輸送左ノ如シ

輸送日 後送先 發送病院 患者數

十七日 北京特設分院 大同陸軍病院 一九

二、第四病院列車ハ五日張家口發北京ニ左記ノ如ク患者ヲ後送ス

左記

大同 陸軍病院 一一四

張家口陸軍病院	四七
厚和陸軍病院	一〇三

計

二六四

3. 第五病院列車ハ二十四日張家口發北京ニ左記ノ如ク患者ヲ後送ス

左記

大同陸軍病院	一九六
張家口陸軍病院	五〇

計

二四六

前項第四、第五病院列車ニヨル後送患者ハ從來ノ如ク内地還送見込患者ノミニ止ラス本次作戰ノ關係上管内陸軍病院收容餘力ノ關係ヲ考慮シ一般患者ヲモ後送セリ

四 衛生材料

1. 獨立混成第二旅團部隊裝備用衛生材料中不足品ヲ交付方申請アリタルニ依リ左記ノ通交付ス

品目	數	稱	數	量	摘	要
外科藥囊	一					
醫療器具	三					
瓦斯治療囊	一					

2104

2. 第二十六師團ヨリ本年度入營兵檢溫用トシテ體溫計四〇〇本實與方申請アリタルヲ以テ大同貨物支廠在庫品ヲ概ネ一ヶ月間貸與スル如ク處置ス

3. 第二十六師團編成改正ニ伴フ不足衛生材料中大同貨物支廠保管

ノ除毒包一〇三〇〇箇ヲ交付ス

4 獨立混成第二旅團ヨリ深源患者療養所ニ病理試験竝菌檢索材料
ヲ交付方申請アリ別紙十一ノ通交付方通牒ス

5 第二十六師團及第二〇兵站輜重隊ヨリ今次作戰出動衛生部員及
救護班ニ對スル携行衛生材料不足ナル旨申出アリ作戰間大同貨
物支廠保管ノモノヲ左記ノ通交付ス

左記

品名	交付部隊	數稱	第二十六師團	第二〇兵站輜重隊	計
醫藥器具		二		一	三
繃帶		六		一	六
瓦斯治療囊 乙		一		一	一
擔架(四車式)		六		一	六

6. 作戰部隊ニ使用セシムル爲試作濾水器六具ヲ大同貨物支廠包頭出張所ニ送付スルト共ニ別紙第十二ノ如ク衛生濾水機ヲ差出セシメ作戰部隊ニ交付使用セシム

7. 在厚和包頭分院ニ必要ナル齒科治療機械ヲ方面軍ニ申請中別紙第十三ノ如ク交付セララルコトトナリタルヲ以テ厚和陸軍病院長ニ通牒ス

8. 巴號作戰衛生材料補給ノ狀況

(1) 包頭南方及西南方黃河南岸地區ノ作戰ニ當リテハ補給點ノ第一二十六師團ニ對シテハ厚和騎兵集團ニ對シテハ包頭トシ其ノ集積數量ハ厚和二分ノ一師團分包頭三分ノ二師團各一ヶ月分トシ集積セシメ圓滑ナル補給業務ヲ實施シ得タリ

- (2) 第二十六師團ノ進出ニ伴ヒ二十四日以後同師團ニ對スル補給
 點ヲ包頭トシ厚和集積材料ハ一部ヲ殘置スル外包頭ニ追送ス
 ルト共ニ補給業務人員ヲ包頭ニ前進包頭補給所ノ強化ヲ圖レ
 リ尙部隊包頭集結時携帶携行衛生材料ヲ十二分ニ補填充實セ
 シメ殊ニ主要衛生材料ハ所定以外ニ多量携行セシメタリ
- (3) 後套地區作戰ニ當リテハ第二十六師團ニ對スル補給點ヲ安北
 トシ同地ニ二十六日ヨリ補給所ヲ開設セシメ騎兵集團ニ對ス
 ル補給點ヲ包頭ニ同兵團長牙店以西地區ニ進出セル後ハ安北
 トシ同所集積量ヲ厚和ニ包頭集積總量同等ニ集積セシム
- (4) 軍ニ配屬ノ歩兵大隊及衛生機關ハ衛生濾水機ヲ携行セザリシ
 爲駐留部隊保有ノ衛生濾水機並試作濾水機ヲ左記ノ通り追送

2108

セシメ部隊ニ交付セリ

左記

衛生濾水機

四具

試作濾水機

六具

附表第一ノ其ノ一

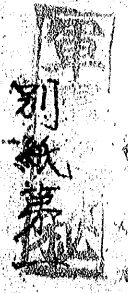
一月第三旬 入院患者旬報

昭和十五年一月三十一日調
駐蒙軍軍醫部

考	備	區		自來現在患者數	戰傷患者數	傳染病患者數	平病患者數	内地還送見込者數
		病	分					
		張家口陸軍病院	本院	一九八	一三	五一〇	一七〇	二七
		蔚縣分院	本院	三二			三二	五
		大同陸軍病院	本院	三二六	四八	一〇	二六七	二八
		朔縣分院	本院	一八	一	一	一六	三
		寧和陸軍病院	本院	一七〇	四七	二	一一一	三一
		包頭分院		二九	一	一	一九	三
		計		七七三	一一〇	九二九	六二五	九七

一本表中アヒビテ数字ハ疑似者ノ別記シテ其ノ病名別員數左ノ如シ

張病 赤痢 四
大病 〃 〃 〃
學病 〃 〃 〃
包介 〃 〃 〃



駐蒙軍冬季訓練衛生研究班設置

第一 研究ノ目的

一、本研究ハ嚴寒時内蒙古高原ニ於ケル作戦ニ伴フ衛生勤務ニ關シ必要ナル事項ヲ調査研究シ次期作戦準備ニ資スルヲ目的トス

第二 研究ノ方針

- 一、研究項目ハ現地ニ即應シ直接衛生勤務上必要ナル事項ニ限定シ且既往ノ研究ニ依リ既ニ成案ヲ待タル事項ハ極力之ヲ除外スルモノトス
- 二、研究ハ廣ク淺キヨリモ寧ロ狭ク深キニ入り衛生勤務遂行上緊要ナル基礎的事項ノ研究ヲ完成スルモノトス

第三 研究實施要領

其ノ一 研究期間

1112

四 研究ノ期間概ネ左ノ如ク區分ス

前期 自昭和十五年一月十五日
至同 年同月十九日

後期 自昭和十五年一月二十日
至同 年同月三十一日

五 前期ハ準備研究ノ期間トシテ研究實施上必要ナル諸調査ヲ行

ヒ編部ニ亘ル研究項目及研究方法ヲ決定シ必要ナル教育ヲ實施シ

材ヲ整備スルモノトス

其ノ二 研究所

六 研究ハ主トシテ西蘇尼特ニ於テ實施スルモノトス

但シ必要ニ依リ一部ヲ阿巴嘎附近ニ移動進出スルコトヲ得

其ノ三 研究機關

七 研究班ヲ編成シ班長ハ陸軍軍醫中佐松崎陽トス

八 研究班ノ編成並差出區分附表第一ノ如シ

其ノ四 研究資材

九 研究ニ要スル資材ハ附表第二第三ノ如ク陸軍醫部ニ於テ關係各機關

ニ連絡シ整備ノ上交付スルモノトス

第四 宿營 給養

十 研究班ノ宿營給養ハ自ラ行フモノトス之カ爲所要ノ材料ハ張家口ヨ

リ搬送スルモノトス

第五 其ノ他

十一 試驗委員並ニ班長ハ人員材料其他研究資材ニ不足ヲ生スルトキハ其

ノ部度之ヲ委員長ニ申請スルモノトス

三試験委員並ニ班長ハ研究終了セハ其ノ成績ヲ研究實施ノ概況ト共ニ
昭和十五年三月盡日迄ニ委員長ニ報告スルモノトス

研究項目

A 第一線傷者ノ處置

第一線ヨリノ救護運搬豫備試験

ノ現制完全防寒具装着ノ儘搬送患者ノ運搬

(イ) 擔架兵ノ體力検査

(ロ) 患者ノ觀察

(一) 第一線處置

(二) 健康者ヲ患者ト假患スル兵ノ場合ト別ニ準備スル生体ヲ以

(三) 保温法ヲ講シタル場合ト防寒具ノ儘ノ場合トノ比較

(四) 選拔ノ距離ヲ變更シテ應檢至ス

(五) 各種選拔法ノ研究

2. 播架及軍帽ニ對スル防卷裝備ヲ如何ニスベキヤ

3. 現前輸送具ニ對スル實驗及考察(一ノ四ニ詳聯ス)

B 生体ヲ以テスル試驗

(A) 野外ニ於ケル生体ヲ以テスル試驗

1. 止血帶ト氣溢短時間的關係ノ研究

止血帶装着法

止血帶装着時ノ深傷豫防

2. 筋ノ開放治療ノ能否及程度

止血ヲ如何ニスベキヤ

器械類ノ使用法使用可能ノ範圍

3. 液傷發生ノ時間的關係

諸種要約ノ下ニ實驗ス

(B) 天幕内ニ於ケル生体ヲ以テスル試驗

天幕内傷者收容

手 術 創ノ觀察

開腹術 經道觀察

輸血、生鹽食塩水、輸血法等ノ實驗研究

C 手術用天幕ノ蒙古風ニ對スル抵抗

D 戰鬥筒ニ於ケル給水ヲ如何ニスヘキヤ

水質検査製作ノ可能範圍

試作濾水器ノ使用法研究

目天幕宿營ニ關スル研究

一、現簡天幕使用

ノ凍結地ニ於ケル建設法

2. 探燧ニ關スル研究 燧ノ研究

3. 天幕内氣温ノ測定

4. 天幕内ノ照明

5. 換氣ノ研究

6. 炭酸瓦斯測定

ニ蒙古包ヲ以テスル前記試案

『藥物携行法』研究

附表第一

冬季試驗衛生班編成並差出區分表

區分	差出部隊		軍司令部		第二師團		獨逸混成旅團		大醫院		張家口病院		計
	大佐	中佐	大尉	中尉	大尉	中尉	大尉	中尉	大尉	中尉	大尉	中尉	
軍醫	1												1
軍醫中佐		1											1
軍醫少佐													1
軍醫大尉			1										1
軍醫中(少)尉											2		2
藥劑尉官											1		1
衛生下士官			1								1		2
衛生兵					10		5				5		20
計					10		5				10		25

備考

1. 本表軍醫ノ階級高分ハ適宜變更スルコトヲ得

2. 本表第二十六師團差出人員中衛生下士官一衛生兵二ハ成ル可ク炊

事經驗者ヲ充當ヘルモノトス

3. 大同陸軍病院衛生兵中ニハ療工勤務者一ヲ含ムルモノトス

4. 本表外傭人若干名ヲ雇ハスルコトヲ得

5. 生体十体ヲ連行ス

6. 軍司令部軍醫大佐一ハ業務全般ノ指導統制ヲナスモノトス

附表第二

裝備

自動貨車 十三輛

個人裝備ハ軍裝トシ完全防蹇被服ヲ着用ス

携行材料及差出區分左表ノ如シ

品名	目數	差出	部隊	品名	目數	差出	部隊
九五式天幕	四具		第二十六師團	毛布	一五〇枚		貨物支廠
八錐形天幕	二具			野戰炊具	一組		
蒙古包	一箇			食糧	五〇人 二〇日分		
試驗用暖爐各種	各一箇		軍司令部	各軍衣袴襪袴下	一〇組		
給水用トシム罐	五箇		兵器支廠	防寒被服(一揃)	一〇人分		
ガソリン燈(汽燈)	二箇		軍司令部	石炭	三噸		
事務用消耗品	若干			木炭	五表		

工
事
用
具
若
干

備
考

一月十八日十六時迄ニ軍司令部軍醫部宛送付スルモノトス

大正九年六月四日 大正九年六月四日 大正九年六月四日

携行衛生材料及差出區分

區分	差出部隊	軍司令部	第二十六師團	大同貨物支廠	張家口陸軍病院
手術用天幕(燈爐 ₃ 含)	—	—	—	—	—
隊醫板 三一號號	—	—	—	—	—
外科器械	—	—	—	—	—
野戰滅菌器手術燈	—	—	—	—	—
體力檢查用器具	—	—	—	—	—
炭酸瓦斯測定用具	—	—	—	—	—
九八式衛生瀧水機乙	—	—	—	—	—
試作瀧水器	—	—	—	—	—
氣溫及濕度測定器械	—	—	—	—	—

一、一月十八日十七時迄ニ張家口陸軍病院ニ送付スルモノトス

二、本表外大同貨物支廠ハ各種注射器及各種注射藥凍傷豫防藥其他藥物
消耗品若干ヲ準備差出スルモノトス

積	各種懷爐石油ポンプ	風速測定用器械
架(四三年式)		一
五	一	



衛生勅務指導計畫

昭和十五年一月十五日
陸軍軍醫部

一、患者收療機關ノ運用

1. 厚和陸軍病院（本院、分院共）ノ現在患者中後送可能ナル者ハ大同、張家口陸軍病院へ後送スルモノトス

2. 厚和陸軍病院本院ハ現有病院建物ヲ以テ其ノ收容力ヲ現在ヨリ一〇〇名増加シ得ル如ク擴張シ又更ニ一〇〇名ノ收容計畫（病院外ノ建物等ノ使用契約）ヲ嚮テ機ニ臨ミ患者ノ收容ヲナスモノトス

3. 厚和陸軍病院包頭分院（在厚和）ノ收容力ヲ現有病院建物ヲ以テ現在ヨリ五〇名増加スル如ク擴張スルト同時ニ更ニ一〇〇名收容

シ得ル如ク計畫準備ヲナス以上ニ要スル患者被服、寢具類ヲ發行ス

4. 獨立混成第二旅團ニ重傷二、衛生下士官四衛生兵二〇ノ救護班一

箇ヲ編成セシム

5. 騎兵集團ニ醫隊一、下士官二、衛生兵七ノ救護班一箇ヲ編成セシム

6. 大同、張家口齒軍病院ヨリ醫隊二、衛生下士官三、衛生兵一〇ヲ厚和齒軍病院長ノ指揮下ニ入ラシム

7. 第二十六師團衛生隊ノ約三分一野戰病院ノ一分ヲ厚和ニ派遣シ軍直轄タラシム

三 患者收容後送ノ方針

1. 厚和齒軍病院現在患者後送ノ爲メ患者列車ヲ運行ス

2. 軍直轄衛生隊ヲ以テ第一線患者輸送ノ一部ヲ擔當セシム

3. 患者收容後送ノ爲メ厚和、包頭病院ニ自動貨車各二輛ヲ配屬ス

4. 作戰進抄ノ場合患者輸送班ノ編成ヲ方面軍ニ要求ス

三 衛生材料ノ補給

衛生材料ヲ左ノ如ク集積ス
ノ厚和兵站司令部ニ

二分ノ師團一ヶ月分

戰傷一會戰分
至病一ヶ月分

2.大同貨物廠包頭出張所ニ

三分ノ二師團一ヶ月分

戰傷一會戰分
平病一ヶ月分

3.包頭出張所ニ藥劑尉官一ヲ派遣ス

4.厚和衛生材料補給ノ爲メ所要ノ人員ヲ派遣ス

5.集積材料中ニハ特ニ左記材料ヲ多量ニ準備スルモノトス
左記

(一)酒精、沃丁

(二)強心劑、止血劑

(三)繃帶材料(戰傷用藥物消耗品)

(四) 感冒治療用材料

(五) 傷傷豫防材料

(六) 血清類

(七) 淨水類

(八) 患者温存材料

與指導上ノ注意

- 1. 作戰間特ニ凍傷、感冒及一酸化炭素瓦斯中毒豫防ニ注意セシム
- 2. 給水ハ試製濾水器、淨水劑ノ使用ニ依リ淨水給水ニ留意セシム
- 3. 敵ノ毒物謀畧ニ備スル在意ヲ徹底シ可及的多數ノ毒物檢知具ヲ行セシムルモトス

4. 輸送間患者ノ温存、保温ニ注意セシメ保温装置保温材料ノ準備ナサシム

5. 衛生機關ノ自備ニ遺憾ナカラシム



平次作戦ニ伴フ衛生副務ニ關スル指示

昭和十五年一月十五日
於張家口軍醫部

一、創傷ノ第一處置カ爾後ノ経過ニ甚大ナル影響アルニ鑑ミ第一救護處
置ニハ莫ニ一段ノ努力ヲ要望ス又瓦斯壕瘴血清注射ノ普及勵行ヲ望

ム

二、軍直轄タル衛生機關ハ部隊衛生機關(救護班)ト常ニ緊密ナル連絡
ヲ保持シ戦況ノ進展ニ伴ヒ候々矢セス之ヲ推進セシメ傷者ノ收療ヲ
迅速ナラシムルヲ要ス

三、衛生隊救護班ノ患者收容所ヲ開設スルニ當リテハ權力既設建物ヲ利
用スルコトニ努メ患者ノ快癒ニハ萬全ノ策ヲ講スルヲ要ス

四、患者運搬輸送ニ當リテハ其ノ温存保溫、護送等ニ萬遺漏ナキヲ望ム
脱血ノ虞アル者、副木血帶裝著患者ニ對シ特ニ注意ヲ要ス患者運
搬用自動車ノ防寒防風ノ設備ヲ考慮シ之ニ要スル材料ヲ豫メ準備

セラレ度

五 酷寒時ナルヲ以テ溢量ノ飲料ヲ患者ニ與フルコト絶対ニ必要ナリ各衛生機關ハ收容中ハ勿論輸送中ト雖モ溢量ノ飲食品ヲ給スルコトニ就キテハ萬般ノ手段ヲ講セラレ度

六 輸送路ノ伸長ニ伴ヒ適宜中繼所ヲ設置シ患者ノ休養治療ニ便スルト共ニ溢飲食給與ノ普及ヲ圖ルヲ要ス

七 陸軍病院ニアリテハ入浴可能ノ者ハ可及的入浴セシメ保清ニ留意シ患者ノ心氣ヲ爽快ナラシメラレ度然ラズル者モ收容當初ニ於テ溢量布ニ依ル清拭局部的清洗等ニヨリ保清ニ努ムルヲ要ス

八 豫想作戰地ハ水質良好ナラサルモノアルヲ以テ淨水ニ關スル準備ヲ周到ニシ淨水劑ヲ充分ニ携行シ給水ニ遺憾ナキヲ期セラレ度

九 凍傷血感冒性疾患豫防ニ關シテハ凍傷膏ノ携行、防寒具ノ整備裝著法ノ適正等ニ留意シ常ニ個人ノ注意ヲ喚起シツツ機ニ臨ミテハ適時

適切ナル意見ヲ速報シ取替ノ處置ヲ請フ等ノ事ヲ以テ
 逸般ノ作成ニ於テ輒ノ小ナリシ爲又ハ副木燒却法ノ不適當ナリシ爲
 凍傷ニ罹患セシ事例アリ

十一酸化炭素瓦斯中毒豫防ノ爲宿營ニ際シ木炭ノ使用炕ノ使用等ニ當
 リ細心ノ注意ヲ拂ヒ不測ノ危害防止ニ努メラレ度

支那寒期ト雖モ腸管系傳染病各所ニ散發シアリ其他傳染病毒常在セル
 ニ鑑ミ防疫ニ關シテハ不測ノ注意ヲ拂ハレ度

其醫學的謀畧ニ關シテハ毒物檢知器ヲ活用シ給水ニ當リテハ土民動
 ノ生体ノ實驗ヲ實施スル等ノ著眼ヲ必要トス

現地物資ノ利用、井水ノ使用ニ際シテハ必ス事前ノ調査ヲ遂ケラレ
 度毒物檢知器ハ更ニ増加交付スヘキモ各兵團ハ現有品ノ集結利用ニ
 努メラレ度

三 輒傷ハ作戦行動ニ及ホス影響甚大ナルモノアルヲ以テ之カ豫防ニ關

シ遺漏ナキヲ期スルヲ要ス

衛生材料携行ニ關シテハ行卒ノミニ依存スルコトナク背負袋其他ニ
ヨル携行法ヲ考慮スルヲ要ス作戰地交通路ノ狀況ヲ考慮スルトキ
特ニ然リトス

衛生材料ノ補給ニ當リテハ軍ニ部隊ヨリノ請求ニ待ツコトナク補給
機關ヨリ努メテ積極的ニ補給ヲ圖ルヲ要ス

天北支那防疫部張家口支部ニ對シテハ防疫準備ヲサシメアルヲ以テ
防疫放ニ敵ノ細菌謀略等ノ爲メ必要アル場合ハ機ヲ失セス防疫部派遣
方ニ關シ意見ヲ速報セラレ度

屯兵馬倥偬ノ間報告、通報ヲ迅速確實ナラシムルハ甚ク困難ナルヘキ
モ患者ノ發生狀況其收療移送或ハ衛生材料ノ補給等ニ關シ適時必
要ナル報告ヲ提出シ衛生勤務ノ完遂ヲ期センコトヲ望ム

駐蒙軍軍醫部長 石 井 義 章

別紙 第四

患者輸送班長ニ與フル指示

昭和十五年一月二十四日
於厚和戰鬥司令部

一、患者輸送班の主トシテ軍直轄衛生機關ヨリ陸軍病院ヘノ患者輸送ニ任スルモ情況ニヨリ直轄衛生機關ヨリ前方或ハ陸軍病院ヨリ後方輸送ニ取スルコトアルハシ

二、輸送區域ヲ異ニシテ分隊行動ニルコトアルハモテ以テ人員材料等ノ準備ヲ並ヘ積極的任務達成ニ努ムヘシ

三、輸送患者輻輳ノ場合自己ノ車輛ノミナラス兵站自動車部隊ニ連繫シ其不慮ヲ補ヒ輸送ノ圓滑ヲ期スヘシ

四、輸送ニ於ケル患者ノ保護ニ關シテハ凍傷、感冒豫防上凡有手段ヲ盡シテ漏ナキヲ期スヘシ

輸送距離長キニ亘ルトテハ中繼所ヲ設ケ温キ飲食等ノ準備ヲナスヲ

要ス

五、輸送時患者温存ニ注意シテ重症患者、骨折患者等ニ對シテハ輸送
 ニ依ル不測ノ障碍排除ニ力努ムヘシ
 六、救急處置ノ準備ニ遺漏ナク期スヘシ
 七、宿營給養患者輸送用人員材料等ハ最寄兵站司令部ニ連繫スヘシ
 八、自衛並ニ輸送途上ニ於ケル護衛ニ關シテハ關係部隊ト連繫ヲ密ニシ
 不覺アカラシムコトヲ期スヘシ
 九、寒氣猛烈半不毛地ニ於ケル本期作戰ニ參加セル輸送班ノ任務重大ナ
 ルニ鑑ミ特ニ體力氣力ヲ旺盛ニシ任務ノ存スル所水火モ辭セサルノ
 樂ヲ以テ自重自愛切ニ健闘ヲ望ム

昭和十五年一月二十四日

駐蒙軍重醫部長 石井義章

別紙第五

軍野戰病院長ニ與フル指示

昭和十五年一月二十五日
於厚和戰鬪司令部

一、野戰病院ハ五原方面ニ對ヘル作戰ノ進展ニ伴ヒ安北附近ニ病院ノ開設ヲ命セラルヘキヲ豫期シテ諸準備ヲ整フルヲ要ス

二、第二十六師團ニハ師團野戰病院並衛生隊ノ各一部ヲ又騎兵集團ニハ救護班及衛生隊ノ一部ヲ配屬セラレアルヲ以テ軍野戰病院ハ前方衛生機關ノ治療ヲ補足完整シ患者ノ病狀苟モ輸送ニ堪ユルニ至レハ成ル可ク速ニ陸軍病院ニ後送ヘルヲ要ス

三、一般戰傷治療材料ヲ整備スルト共ニ凍傷並感冒性疾患就中肺炎等ノ治療ニ遺憾ナキヲ期スルヲ要ス

四、病院開設ニ際シテハ極力既設建物中完備セルモノヲ利用シ特ニ患者ノ保血ニハ萬全ノ施策ヲ講スルヲ要ス

五、安北ニ於ケル患者ノ收容力ハ常時三〇〇〇名トシ更ニ二〇〇〇名擴張シ

得ルノ計畫ヲ樹立シアルヘシ

六安北ハ荒廢シ利用建物僅少ナルヲ豫想セラレアルヲ以テ努メテ多クノ天幕以之ニ應スル採煖具ヲ携行スルノ要アリ

七患者ノ收容後送ハ主トシテ重患者輸送班擔當スルヲ以テ密ニ連繫シ尙要スレハ之ニ協力シ患者ノ澁滯輻輳ヲ惹起スルカ如キコト無カラシムルヲ要ス

八患者輸送機ノ若干ヲ運用セラルルノ筈ナルヲ以テ急ヲ要スル重症者ハ機ヲ失セス之カ利用ヲ圖リ後送ニ努ムルヲ要ス

九患者ノ食餌ハ收容當初努メテ濫キ飲物ノ給與ヲ計ルヲ要ス尙包頭貨物廠出張所ニハ患者食ノ相當量準備シアルヲ以テ之カ利用ヲ圖リ患者ノ相養ニ遺憾ナキヲ期スルヲ要ス

十衛生材料ハ六安北ニ補給點存スルモ包頭出發時成シ得ル限り整備携行スルヲ要ス

駐蒙軍軍醫部長 石井 義章

別紙第六

第二期作戰衛生指導計畫

昭和十五年一月二十四日
於厚和戰鬥司令部

一、衛生機關ノ運用

ノ方面軍ヨリ増加ノ衛生機關中衛生隊三分ノ一ハ騎兵集團ニ配屬シ
野戰病院一ヶハ軍直轄トス

右衛生機關ハ一月二十六日迄ニ包頭ニ到着ノ豫定

2. 軍直轄野戰病院ハ安北ニ病院ヲ開設セシム

情況ニ依リ一部ヲ西山咀ニ前進セシメ同地ノ集團衛生機關ノ推進

ヲ圖ルコトアルヘキヲ豫期ス

3. 在包頭陸軍病院ノ收容患者ハ成シ得ル限り後送ニ努メ常ニ收容力

ニ餘祐アラシム

二、患者ノ收容後送

ノ軍直轄患者輸送班ハ其ノ主力ヲ以テ安北野戰病院ノ患者ヲ在包頭

陸軍病院ニ後送ス

但シ情況ニ依リ第一線兵團衛生機關ノ患者ヲ安北野戰病院ニ後送スルコトニ努力ス

2. 西山咀附近ノ戰團ニ於ケル患者ハ騎兵集團配屬ノ衛生機關ヲ以テ收容後送セシムルモ重直轄患者輸送班ノ一部ヲ以テ之ニ協力シ在包頭陸軍病院ニ收容ス

3. 騎兵集團ノ西山咀西方ニ進出後ハ其ノ患者ハ安北野戰病院ニ收容ス

4. 患者輸送班長ハ患者後送ノ爲ニ主トシテ患者自動車ヲ活用スルト雖モ情況ニ依リ適時兵站自動車隊ノ空自動車ヲ利用スルコトニ努メ之カ爲常ニ兵站自動車隊長ト連繫ヲ密ナフシム

5. 方面軍ヨリ患者輸送用飛行機二機ノ配屬ヲ受ケ重症者及骨折患者ノ迅速輸送ヲ圖ル

6. 患者列車二輛ヲ包頭ニ準備シ隨時患者ノ後送ニ努ムルト共ニ情況

ニ依リ病院列車ノ派遣ヲ方面軍ニ要求ス

三 衛生材料ノ補給

ノ厚和ニ集積シアル衛生材料ノ殆ト全部ハ包頭出張所ニ前送ス

2. 部隊ノ包頭集結時極力携行及携帶衛生材料ノ補給充實ヲ圖ラシム

3. 安北ニ約13師團分

（戦傷用一會戰分
平病用生ケ月分）

ニ相當スル衛生材料ヲ集積シ

爾後ノ補給ヲ圓滑ナラシム

4. 五原占據後ハ所要ニ應ジ補給點ヲ同地ニ推進ス

別紙第七

第二期作戰ニ伴フ衛生勤務ニ關スル指示

昭和十五年一月二十四日
於厚和戰鬪司令部所

一、今次作戰地域ハ敵ノ重要根據地ニシテ多年其ノ防備ニ腐心シアリシ
處ナルヲ以テ之カ攻略ニハ相當ノ犠牲ヲ覺悟セサルヘカラス從テ各
部隊ハ相當傷者多發ノ場合ヲ慮慮シ豫メ衛生準備ニ萬遺憾ナキヲ期
スルヲ要ス

二、部隊ノ包頭集結時ハ同地ノ野戰貨物廠出張所ニ連繫シ携行及携帶衛
生材料ヲ十二分ニ補填充實シ殊ニ主要材料ハ所定以外ニ多量準備携
行スルヲ要ス

三、携行衛生材料ノ検査ヲ勵行シ治療實施ニ當リ遺憾ナキヲ期スルヲ要
ス特ニ易凍藥物ノ携行法ニハ留意スルノ要アリ

四、火線ニ於ケル勤務ノ要諦ハ戰場死亡者ヲ極力減少セシムルニアリ之
カ爲胸腹部戰傷者及大出血患者ノ適切ナル處置竝迅速ナル後送ニ最